

農林技術研究所だより

最新研究紹介

クルクマの日持ち向上技術



静岡県農林技術研究所
花き科 研究員
高橋由美香

1 はじめに

クルクマは静岡県の特産花きで、初夏から初秋にかけて収穫されるシヨウガ科ウコン属の植物です(写真1)。花に見える観賞部位は苞と呼ばれる器官で、本物の花は苞(ほう)の中に隠れるように咲いています。苞の形が蓮の花に似ていることから、仏花として需要があります。また、熱帯性植物で暑さに強く、切り花の日持ちが低下しやすい夏に重宝される品目です(写真2)。

クルクマは、一旦水が下がると上がりにくいと言われています。このため、産地では早朝、株から引き抜くように収穫した後、圃場に持ち込んだバケツを用いて、すぐに水揚げを開始します。その後、切り花長を調整し、再度水揚げを行い、ダンボール箱で出荷します。

クルクマは、通常3週間以上日持ちします。しかし、同じ日に同じ圃場で収穫した切り花の中に、数日でおれ

写真1 クルクマの花(色の付いている部分は苞)



写真2 クルクマを使った生け花



るものの混入が問題となっていました。日持ちの短い切り花は、苞の上部が急速に乾燥する独特の症状を示し、出荷初期の5〜6月に多いと言われ、きました。発生原因が明らかではありませんでした(写真3)。

2 水揚げ前の切り戻しと界面活性剤の使用によって日持ちが向上

(1) 水揚げ前の切り戻しによって日持ちが延長

クルクマ切り花を、株から引き抜いた収穫直後の状態で生け続けると、あまり吸水することなく、日持ちが低下しました(図1)。一方、切り戻しをした上で生ければ、日持ちが改善し、深く切り戻すほど良い結果となりました。

写真3 日持ちが短いクルクマの特徴的なしおれ方



(2) 乾式輸送では、界面活性剤の前処理によって日持ちが延長

このことから、株から引き抜いた収穫時の状態は、吸水がしにくく、切り戻すことにより水揚げが改善することが明らかとなりました。したがって、日持ちが短い切り花が混入する原因は、切り花長を調整する際、切り戻しを行わないか、極端に少なく、吸水が不十分だったためと考えられます。

クルクマ切り花は、出荷が始まる5〜6月は茎長が短く、夏に向かってく徐々に長いものが収穫されるようになります。日持ちが短い切り花の発生が、茎長が短い5〜6月に多いことも、これを裏付けていると考えられます。茎長が短いときに切り戻しして、更に短くすることに抵抗があることと思いますが、切り戻すことにより吸水を十分にさせることができます。

3 市販BA剤の浸漬処理の効果

はできず、出荷に当たっては適度な切り戻しと前処理剤の併用が有効と考えられます。試験では前処理剤としてハイフローラG2000(パレス化学(株))を用いましたが、この剤に限らず、吸水促進を目的とした前処理剤は、比較的ランニングコストが低く、導入しやすい技術と考えられます。

ダリアやカラー等では、日持ちを改善するため、ミラクルミスト(クリガル・ジャパン(株))の浸漬処理が行われています。そこで、クルクマへの応用を検討してみました。クルクマの苞をミラクルミスト1000倍液に数秒間浸漬処理したのち、乾式状態にすることなく、水揚げを継続した場合、高い日持ち向上効果がみられました(図2)。一方、処理後2日間乾式状態で放置したのち、水揚げした場合は、日持ちが短い切り花の発生がみられました。このため、ミラクルミストの浸漬処理は、クルクマの日持ちを延長する効果がありますが、産地で課題となっている日持ちが短い切り花の発生対策としては有効なものではないと考えられます。また、ミラクルミストの浸漬処理は、ハイフローラG2000に比べると高コストとなります。しかし、ミラクルミストの日持ち延長効果は高いものであり、今後は産地の販売戦略に応じた利用法を検討いただければと思います。

5 おわりに

クルクマの乾式輸送でも、5cm切り戻した切り花を、ハイフローラG2000の2000倍希釈液で前処理することにより、産地で課題となっていた、日持ちが短い切り花の発生を抑えることができました。静岡県のクルクマの産出額は1億円を超えており、今後も成長が見込まれています。今回解明した日持ち向上技術が、静岡県のクルクマの品質向上の一助になればと思います。

連絡先 磐田市富丘678-1
静岡県農林技術研究所 花き科
agrikaki@pref.shizuoka.lg.jp

図1 切り戻しと界面活性剤によって日持ち向上

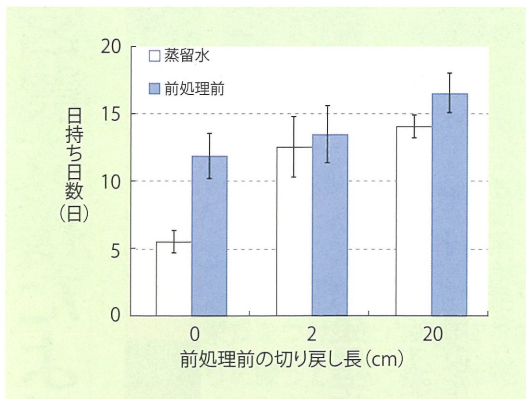


写真4 乾式では界面活性剤の使用で日持ちが改善



図2 湿式輸送と市販BA剤で日持ち向上

